

高松中央 実力伯仲の熱戦展開

【空手女子個人団体決勝・高松中央Aー高松中央B】高松中央Bの中堅、向井瑠(右)が上段を攻める



「完全燃焼、悔いない」女子



組手 個人・団体

「やはり、レベルが高い」。県内の空手関係者がうなるほどの試合が続いた。県総体では数校のエントリーがある空手だが、コロナ禍の影響もあって、組手には個人、団体を含めて高松中央1校の出場となった。それでも最近4年間で全国高校総体(インターハイ)を男子が2度、全国高校選抜大会を男女とも1度優勝した全国屈指の強豪校だけに、実力伯仲の熱戦が繰り広げられた。

4チームが出場した男子団体は、岡山監督の指導を受けたと、北九州市から懐に飛び込んできた主将の北代のAチームが優勝。この日の組手個人も制した実力者は「勢いに乗っていた」と会心の笑み。

2チームが出場した女子も、組手個人女王の座に就いた主将の向井瑠のBチームが制し、「勝つにこだわった」と胸を張った。

男子は2連覇、女子は昨年3位の雪辱を誓っていたインターハイが中止となり、目標を見失いそうになる中、励まし合って挑んだ代替大会。校内決勝となったが、国丙トップクラスの真剣勝負を展開した選手は、戦い終わった後、健闘をたたえ合った。「楽しいこともチームで、最高の大会になった」と北代。向井瑠も「完全燃焼できた。悔いはない」と暗れやかな表情だった。

岡山監督は「気迫があっけず、良かった。腐ることなく日々の練習をきっちりとし、みんな本当に成長した」と目を細めていた。

「最高の大会になった」男子



【空手男子個人団体決勝・高松中央Aー高松中央C】高松中央Aの副将、北代(左)が上段を攻める